

## 愛知県下に於ける仏教と地域福祉

宇佐美 諦 練

(愛知県仏教会会長  
愛知県宗連理事長)

愛知県は全国第一の仏教寺院数があり、其数は現在、四、八三六ヶ寺で公認された宗教法人数である。

全宗教法人数は県下九、四三七の宗教法人数で全国第一の宗教法人数を誇る県である。宗教別を見ると、仏教系、四、八三六を第一、神道系の三、七三六、キリスト系の一〇五、諸教の七六二となっている。仏教系は尾張部と三河部と名古屋部に分けてそれぞれ運営している宗派が多い。寺院数の多いのと又、多少習慣の異なっているためでもある。

仏教の宗派別を見ると、天台系の一三七、真言系の三三九、浄土系の二、二九九、禅宗系の一、六七二、日蓮系の二六一、其他の一三六となっている。浄土系が第一位であ

り、禅宗系が第二位である。浄土系が多いのは真宗大谷派が非常に多い。神社数も多いが、二社及三社と兼職していて主管者の数は神社数より少ない。キリスト教は一〇五であるが各教会が活動していて今迄は幼稚園数が多い。

### 宗教、特に仏教の社会福祉

福祉という語は近來何事にもつけられ老人福祉及身体障害者福祉又何々福祉等、一般に奉仕的な仕事には必らず福祉がついて広範囲である。即ち利益を度外視した仕事は総て福祉であり、献身的に奉仕する仕事は総て福祉と呼ばれている。

宗教は総べて自利と利他の活動である。自利は真理の研

究即ち宗乗及教理の學習に依つて自己の人格向上であり、利他は他人の幸福のために努力精進する利他行又慈悲行又菩薩道である。結論は一切衆生を仏の心を持つ最高の教育であり、勿論物質より精神に重点を置いた利他行である。私共の先人はたとえ現在が貧困であり、又不幸であつても仏のお救いを忘れず毎日仏を拝み又念仏せよと住職は檀家や又地域の人々に布教していた。時間のある限り努力して物質では出来ないが其幸福を感得する心に絶えず心の財産即ち布教を続けていたと思う。又それは住職として僧侶としての使命でもあつた。仏様の様な完全な人格の人を一人でも多々送り度い。即ち人造りの大目的のため努力した。それが子供を集めて十人位の子供のために寺小屋を開いて「三ツ子の魂百迄」を実行し地域福祉の幼児教育を実行した。

今尚時折に古い飯台が墨々となつて残っているのを見ると「読み」「書き」を教えた先先祖の住職の努力を感じ、なつかしい思い出である。寺の創立の歴史を見ると何れも地域の方々が自分達の幸福のため、又子孫の倅のため金品を持ち寄つて堂宇を建て、徳の高い僧侶又自分達の

毎日の暮しの中に光を与えて下さる住職を懇請して入寺住職させられた例が多い。地域の住民のため又心の福祉即ち利他を目的とし、又人格完成即ち成仏を大理想とせる仏教の寺院である事は論を俟たない。

茲で仏教寺院設立の原点又要望に帰つて考えて見たい。

### 胎教から、幼児教育まで

三河地方を布教に巡教していると時折に其寺の住職から、説教の登高座されて讃題の前に座っている妊婦に特別に三帰戒を授けて頂き度い、一同が唱和するからと云われる。突然の事で布教師も戸惑う事がある。直後に妊婦に對し日頃の心得を二、三説教する。たとえば毎朝夕毎に仏壇に参り念仏して深々線香の煙を吸うて胎児に届く様にする。又喧嘩口論は絶対にしない等仏法僧の三宝に帰依する事を説いて同時に一般聴衆に對して布教とする。椎尾弁匡大僧正は「念仏を唱えて腹をなでる事、それは念仏が母体を通じて胎児に念仏が必らず伝わる」と教えていられた。仏教は胎教より始まる。

七日後お七夜がある。神社だけでなく檀那寺及吾家の仏

檀の先祖に奉告する。仏と共に成長して三才から四才になれば祖父母又両親は檀那寺や附近の寺院へ、お彼岸、又花まつり、セガキ等に連れられて説教を聞き、内容は判らないが要は「悪い事をするな良い事をせよ。」そして一同が念仏すれば一緒に念仏して其特別の空気を子供心に痛感する。

三才、四才、五才の頃が其人の人格形成の根元となると云われている。祖父母のあった家庭に不良児は出ないと識者は発表している。又正月や盆や彼岸にお墓参りをして花をさし、附近の雑草をとり掃除してお参りする。これが相当老年になって心に残っていると老人は皆云われる。墓参りと祖父母と仏様が一体となって殊に貴い思い出を残している。

こゝ迄は家庭教育で家族の心持ち次第で仏との「つながり」が保たれる。

五、六、七才より幼児期の教育となり、地域の幼稚園及保育園に入園する、最近はバスで相当の遠い距離より通園するが、地域の子供が多い明治時代迄は寺の住職が只読む事と書く事だけを教えていた寺小屋であるが、毎週の力

キラムの通り課目が非常に多いので大切な情操教育又情操保育に欠ける点が多いのは残念である。大正及昭和中期頃迄吾共の大学では児童部即ち童話研究が盛んで童話が出来ない学生は一人前でなかった。童話を通じて情操を子供に基礎つけた。一般布教と同様に全力を挙げて童話術習得に努力した。其当時の童話の先輩は今老年になり時折なつかしいお名前を拝見している。

大正時代昭和中期迄にキリスト教は県下に十以上の幼稚園を設立している。外国の幼時教育の施設を実施したのはキリスト系が早かった。名古屋市に於ても大正の中期に樵尾辨匠博士に依って財団法人慈友会を設立して幼稚園及保育園及母子寮託児所等を設立して寺院の子弟を其指導員として其業務を身を以って体得させられ、戦後の幼稚園及保育園時代に大活躍する基本となった。先見の明には感銘して其徳を慕っている。

茲で愛知県下の幼稚園の現状を紹介する。本年四月一日私学振興室の調査に依ると三月卅一日限り宗教法人より学校法人化により、幼稚園学校法人数三六七。仏教系七五、キリスト系二八、其他となっており、宗教法人で頑張つて

いる園は僅か廿五園で其半数は目下休園の状況である。御承知の宗教法人では補助金も無く他園と対抗出来ない状況で加うるに園児の減少で宗教法人の仏教系も大打撃の状況である。

私も自坊で二十数年前に月影幼稚園を設立した。最初は銀行よりの借入金で個人立で開設し数年にして借入金を返却して宗教法人へ寄附して宗教法人立とした。其後十余年学校法人化の聲が高まり、意を決して遂に宗教法人立で廃園とした。二十年間の幼児教育は決して無駄ではない。過日も卒園児が本年度の高校野球に選手で出場し惜しくも優勝出来ず惜敗したが、翌日早朝本人が私を訪問して「園長先生優勝を逸しましたが、甲子園の記念の砂とボールです。又次回に頑張ります」と報告に来て呉れた。私は非常に嬉しくて幼稚園経営二十年の甲斐があった事を喜んだのである。同じ境内地に宗教法人と学校法人が両立し、中には幼稚園だけが盛大になり寺院の影が薄くなっているのもあり『庇を借して主屋をとられた』の感じの深い寺院もあるが、仏教の幼児情操保育に倍々御健闘を祈っている。

七、八才より義務教育となる。ここで各家庭でも先生任

せとなる。折角教えた仏壇へのお参り先祖への奉告も、祖父母への挨拶も略されて算数や読み方や理科其他の科目に熱中して、寺院住職の言葉を取り入れる機会が少ない。

心ある住職は日曜学校及子供会を開設して熱心に指導されているが都会より農村近くが盛んである。此の年令もまだ寺院住職の接触出来る年令である。

### 青年層及壮年層への教化

現在の県下の私立中学及高校及大学は総て明治中期迄は寺院の子弟の教養の学校であった愛知学院、東海学園及同朋学園、等総べて寺院子弟教養機関より一般子弟教養機関となり私学では県下の右翼の学園である。時代の進歩と制度化には勝てず一般子弟の教養の場となったが職員先生は仏教僧侶が多く教育の間に仏教の貴い教えを伝えていられた。

岡崎市に或る寺で家庭内暴力学生を三、五人を預って寺で起居を共にし昼間は寺の持ち山及畑等を耕作して指導している和尚さんがいる。勿論禪宗系の僧侶で雲水修行した作務を仕事とした経験を持つ方である。起居から畑や山の

仕事等檀家の余り無い寺で禅宗系でなければ指導出来ないのと農村である事で都会寺院では出来ない。又浄土系では到底出来ない仕事であるが社会から脱落せんとする青年の更生には敬服する地域福祉である。

更に一家の中心をなす壮年層への教化及仏教福祉である。一番大切な壮年層であるが寺院及住職に接近する機会が乏しい。一般に仏教書がよく売れる点から見ると心の中には仏教を求め、心の問題に関心が深い事は察せられる。私が昨年五月より一ケ年間、中日新聞の日曜版の「ともしび」、こころ、の欄に宗教家六人で交互に短文を書いた。四〇〇字詰の三枚である。私は仏語の皆様の知っている語を中心にたとえば「精進」とか「娑婆」とか又「唯我独尊」とか一ケ月半に一回出すと、必ず午後読者に読者より電話があり種々家庭状況の相談があり、二、三日後には続々と封書で相談があり、時折訪問される方もあり、何れも壮年の人で主婦が多い。心を割って相談し指導して頂く方も無くお寺の住職も勤め人で相談をしてくれないと云う。新聞の威力を感じた。私は小冊子に纏めて一千部を刷って施本用としたが既に施本の冊数がなく目下三〇〇部追加中に

て一家の主人や主婦は落ち着いて仏教福祉の関する話を聞く機会がなく短篇でも読んで心に安心感を得たいと願望している事がよく判る。

機会ある度毎に短篇でも出し度いと思う。

### おちこぼれへの福祉

全国に保護司制度がある。地区毎に保護区があつて軽犯罪者を保護観察所を通じて保護司に保護観察を依頼される。私も二十数年保護司を拝命している。当初は仏教僧侶が二、三割の人数が任命されていた。現在の県下の僧侶数を其の職業別で見ると、愛知県下の保護司総数は、二、三三三〇名である。其中の仏教僧侶は一四三名ある。宗教系の中でトップである。これは早々から保護観察所へ勤務していた僧侶が多かつた事にもよる。

次は民生委員である。生活保護に当たっている、県下に四、七三三名が任命されている。その中に、仏教僧侶は一七四名である。仲々活動していられる。ただし此の数の中に保護司と民生委員を兼ねていられる氏名が多数ある。福祉のために努力している方は各方面にも努力していられる

事が判る。其他町内会長（連絡協議会長）及児童委員等にも多数活躍されている。

宗教教誨師である。犯罪者の収容施設へ出向いて教誨するのである。教誨には集合教誨とグループ教誨と個人教誨とに別れている。集合教誨は全部を集めて教誨する方法で、グループ教誨は宗派別の教誨、個人教誨は各個人対象に行う教誨である。月一回及二回である教誨師の依頼は宗教連盟理事長が依頼している。現在理事長は私が推薦されている。

教誨師数は五十四名である。割当は教団の数に応じて決定されており、退職や死亡に応じて其後任を依頼して人員を増加する事が出来ない。希望者は非常に多いが施設の時間割があつて致し方ない。五四名中仏教系廿六名、神道十名、キリスト系八名等である。

県下の施設は、名古屋刑務所、名古屋拘置所、瀬戸少年院、愛知少年院、岡崎医療刑務所、岡崎拘置所、豊橋拘置所、豊岡農工学院である。月一回及至二回施設に出向いて収容者に教誨し速やかに社会に復帰更生する為努力している。

## 今後の仏教福祉について

一法人一福祉を提唱している。私は十一月十二日の宗教法人指導者研修会にも又十一月末に発送した県仏教会報にも強調している。

### 第一宗教法人特に仏教寺院は掲示板を出す

これは最も安易な方法である。其寺の法要及行事を知らせる告知と住職又主管者が最近に最も感銘した名言や和歌及俳句等を書いて掲示する。私は戦後継続しているが私は感じた名句を手元に書き止めておき、これを次に出す揭示の句とする。印刷物は何処も同じで効果が薄い。最近はカレンダーを月一枚つつ取るので其裏を利用している。月四五枚はある、これに必らず書く事になっている。時折通行人がノートに筆記している人もある。又此処に公益法人の寺がある存在を示す為にも必要である。

現在は便利な掲示板が出来て「ガラス」張りで風や雨にも耐えられ価格も安いので一法人又一寺院に一掲示板を送り自利利他の両方面に活用し一般民家と異なる点を示して

寺院の存在を明示して欲しい。

## 第二 寺院住職の才能を活用して社会福祉を

私の教え児に非常に習字の上手な生徒があった。小さい寺の小僧で字が上手で役場に採用された後に召集を受けて中隊の事務室勤務となり、無事帰還し役場に勤めつゝ、習字塾を開いた。

以来卅年習字塾の子供が皆一家の主人となり、檀家が少ないので専ら書道に専心した。先日寺の庫裡の新築及本堂の修理を見て頂き度いと布教の依頼の手紙を受けた。早速当日参上して庫裡と新築の座敷に驚いた。田園の中に見事なものである。種々話を聞くと書道の御陰であると。檀家も少ないので書道で教えた教え児が大半である。仏様への花や野菜は皆が持って来てくれる。役所の退職恩給で金には困らぬ年二、三回はど国内旅行をして楽しんでいると、芸は身を助くる通りの現実である。

## 第三 茶や華の指導、特に尼僧寺院は

これも私の古い教え児の尼僧さんである。

所用のため訪問すると見事な茶碗で抹茶を一服出して呉れた。茶碗をよくよく見ると高価な品である。茶華を教えて何十年其弟子も多く月謝も多く茶器を買って老後を楽しんでいると。又お経に行く先も茶華の弟子よりの依頼も多く時折娘さんの縁談もすゝめていると。住職個人の才能で充分福祉が行われていると痛感した。

## 第四 寺院は地方福祉のため開放する

都会には時折其の門を閉ざして寺院であるがお参りも出来ない、呼鈴で側門より出入している寺がある。公益の法人で境内地の免税に対し何等公益を発揮せず将来批難の対象となる事と思う。先日朝早く起きて毎日の行事で先ず風呂に入り抹茶を一服のんでいると境内の門の辺りで心経を読む声がする。誰かと思つて出て見ると老婦人が大きい声で境内の地藏様や観音様の石仏の前で心経をあげていられる。私は近づいて誰方ですかとたずねると、私は大阪の田舎から昨日所用で息子の近くのマンションに居る者です。毎朝村の神社とお寺へ参りそれぞれ心経をあげる日課ですが、昨日来名して近々に寺が在るので皆の起きる前に参詣

さして頂きました。これで安心しましたと、早速私はお茶を飲んだのでどうぞお茶でもと座敷へあがって頂いてこれから本堂の朝の勤行をしますから御参り下さいと云って、いつでも本堂へお参り下さいと云うと、十日程の期間ですが毎朝参らせて頂きますと。十日後老婦人の心経の声も聞へず私自身淋しい感がした。都会の老人の行き場は寺院が一番好適である、出来る限り開放して仏様を深め度いと思う。

## 第五 月参りの読経後の法話

寺の住職は何代もの間の檀家の状況を一番よく知っている。月参りの僅かの読経の後の数分間でも家庭の相談の時間とし度い。割合に利害関係や色々事情で家庭の相談が出来る人は無いもので其点は寺院の住職が一番である。天理教の教誨師の方が、「仏教では檀家が五十軒も百軒もあって生活が出来ぬと云って勤めに出る、私共天理教では信者が十軒あれば其教会は支持出来る。天理教ではほとんど他へ勤務している者はない。真剣さが僧侶の方には足りないと思う。信者の収入の中から其一割を頂くだけ努力すべき

だ」と云われて私は深々反省した事がある。法事や月参りを利用して檀家及地域の人々の相談役となろう。

最後に仏教は、住職や主管者の才能に応じて地域福祉のため公益法人の主管者として全力を挙げて努力し、時代と時局は変わっても一切の衆生を仏とする熱意は不変である。